

職員による自己評価

A環境面

・コロナ禍で、安全かつ安心して活動ができる環境をどう考えていくかということに課題がある。

B児童への支援内容

・外出や調理、イベントなどを行うことが出来ていない。状況を見て、検討をしていくことが必要。

C関係機関との連携

・必要な際には関係機関との連携を行っている。

D保護者への説明責任・信頼関係

・様子や課題についての情報共有、相談等については大切に行っている。

・苦情の対応については、分かりやすく伝える必要がある。

E非常対応

・避難については、再度検討をする必要がある。

・各種マニュアルの周知について、課題がある。

保護者による評価

A環境面

・スペース、人員配置共に概ね満足。

B児童への支援内容

・地域との交流ができていない。

・ニーズや課題が客観的に分析された上で個別支援計画が作成されていると感じている。

・プログラムについては、工夫が必要。

C事業所からの情報発信

・通信等での情報発信に概ね満足。

・おやつの試食会を希望。

・様子や課題についての情報共有、相談、子どもや保護者との意思疎通については概ね満足。

・ブログ等での活動について、より多くの発信を希望している。

D非常対応

・非常時の対応について、ある程度の周知をすることができている。

事業所内での分析

【共通点】

保護者との様々な情報共有、相談、子どもや保護者との意思疎通、活動内容の周知については満足度が高い。

子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、個別支援計画が作成されているとスタッフも保護者も感じている。

【相違点】

活動内容について、スタッフは工夫が必要だと感じている。

分析・検討してみても…

事業所の強み

子どもや保護者との意思疎通、相談・助言を丁寧に実施している。

子どもの様子や課題についての情報共有については、送迎時や連絡帳などで丁寧に行っている。

関係機関との連携を、必要に応じて行うことを大切にしている。

子どもたちが楽しみによるこびに来ている。

事業所の改善点

コロナ禍でイベント等を実施することが出来なかった。活動内容について、工夫をしていく必要がある。

活動内容の発信について、ブログ等で多く行っていくことを保護者が希望している。

事業所の改善への取り組み

子どもたちがこれからも楽しくよろこびに来ることが出来るように、必要な人員配置を行っていく。コロナ禍でも安全に楽しめるような活動の工夫を行っていく。

状況が落ち着いた際には、おやつを試食会等のイベントを検討していく。

情報の発信については、通信、ブログ、お手紙などで積極的に伝えていく。

よろこびの取り組み等について、通信や掲示にてお知らせをしていく。

～自己評価を行っての事業所としての感想など～

子どもたちや保護者の皆さまとの意思疎通や情報共有、相談・助言については、よろこびとして大切にしてきたものであり、皆さまにもご評価いただけたものと思います。また、子どもたちがよろこびに来ることを楽しみにして下さることを大変嬉しく感じました。今後とも、子どもたちが楽しく活動し、「また来たい」と思えるような場所とすることが出来るように努力をしていきます。

今年度も、新型コロナウイルスの影響で様々なイベントを実施することができませんでした。このような状況下でも活動内容について工夫をしていくことが出来るように検討をしていきたいと思っています。

これからも、子どもたちと保護者の皆さまが安心して笑顔で過ごすことが出来るように、様々なことに取り組んでまいりたいと考えています。

事業所名 よろこび
担当者 小林 真起子